２０１９年
２５４号
７月１７日（水）

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
（越労連内）
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

春の仲間増やし月間
班活動・クラブ活動などで目標の10名達成

目標達成に支部長として機関紙に仲間づくりを訴えた手前「ガンバル」と決意。

5月共同墓の呼びかけで浅見さん、昼食会（毎月一回読者対象）で高楠さん、沢田さん、関根さん、清水さんが、シティウオークの会で住田さん、グラウンドゴルフクラブで粕川さんが呼びかけに応えてくれました。

久し振りのガンバリでした（支部長として7人）、さらに北部のカラオケで石上さん、浜田さん、横尾さんが加入。一身上の都合で退会していた灘谷さんが再加入。そして大和田（裕）さんが加入し、12名の加入となりました（吉田健治）

自治体要請キャラバン
越谷市と懇談

埼玉県社会保障推進協議会は、2019年自治体要請キャラバンの一環として、6月26日（水）午後2時から3時半までの予定で越谷市との懇談を実施しました。

自治体要請キャラバンは10日間にわたり当方が事前に提出した統一要望書に埼玉県の63の各市町村の自治体が回答する形で行われます。

当日は、越谷市からは国民健康保険管理課、収納課、介護保険課、障害福祉課、子育て支援課、生活福祉課の職員12名、当方は越谷社会保障推進協議会の役員を中心に27名が集まりました（誰でも参加できます）。年金者組合からは五十嵐書記長、和田・足立副支部長が参加しました。懇談内容は、○国保：国保税を引き下げてください。○介護：介護保険制度の充実を図ってください、総合事業の充実を図ってください。○障がい者：障がい者の福祉の事業を拡充してください。○保育・学童：待機児童を解消してください、保育内容の充実を図ってください。○生活保護・生活困窮者：制度、施策の充実を図ってくださいなど。

統一要望書に対して当日越谷市から回答が配られ、それに基づいて懇談しました。懇談のいくつかを紹介します。

国保の子供の均等割りについて「他の市では減免している所もあるが越谷市では何故できないのか」の質問に対し、市側は「国がやらないといっているのでできない」というあたたかみのない回答でした。介護保険料は3年おきに見直しのたびに上がっていき非常に高く感じるという事に対し、市側は「減免を利用している方がすくないのでは、窓口で申請してもらわないとできない」との事。障害者の福祉タクシーの利用をもっと拡大して欲しい。川口や蕨では申請すれば誰でも利用できる、越谷でもおなじようにできないか。

年金者組合の和田さんからは「夫婦二人で月26万円必要。金融庁からは人生100年で2,000万円不足するという報告がでた。国民年金を夫婦二人でもらっても月13万円しかならない、最低でも生活保護以上に年金が支給されないと生活できない」という発言がありました。

今後も懇談を続けて行くことを確認し16時前に懇談を終了しました。

（五十嵐）

点睛
河川の利用で原子力や化石燃料から再生可能エネルギーへ転換を

人間は、水が無ければ生きられません。その水について考えてみます。

水は水蒸気となり、雨となり川となり動植物の大切な飲み水等になります。

現在、河川の水は、河川法により利用する中身が規制されています。

河川法第23条で水利権と呼ばれる権利の許可を取得しないと、利用することができません。

水利権には用途により水道用水、工業用水、農業用水、発電用水、雑用水と目的用途により許可をされ、目的外の使用を禁止しています。

以前は規制の無い地下水を越谷市で利用していた所も、高度成長期に地下水をくみ上げすぎ地盤沈下が甚だしく、地下水の規制が始まってからは、水道用水、工業用水の多くは河川の水を利用しているのが現状です。上流部にダムを造り雨水をため、溜めておいた水を下流部で取水するというのが一般的です。そのためダムを設置する費用を取水しようとする者（以下利水者という）に負担させ、その権利を水利権という形で許可を受けています。

世界の状況は、原子力や化石燃料から再生可能エネルギーへ転換をしようとしている時に、もっと河川の水を有効活用すれば、大きなエネルギーを生み出すことが可能です。最近では小水力発電も数は少ないですが設置され稼働しています。

元々日本の河川は西洋の土木学者に言わせると「滝」だと言われるほど急流河川が多くあります。この落差を利用すれば発電は可能なのです。また、水道水にしても「水圧」をかけるときに発電が可能ではないでしょうか。大規模発電所が停止すると、ブラックアウトが起きかねません。また、長距離を送電線で送ると、放電する電力が多く発生します。河川の水を多目的（小水力発電等）に利用できるようにすれば、利用方法がもっと拡大するのではないでしょうか。

（和田）

＜カンパのお願い＞
※「三大会」（日本母親大会／原水爆禁止世界大会／日本高齢者大会）代表派遣
※「年金引下げ違憲訴訟」